

ゆうのゆう後援会だより

No.25
2018.8

紙面座談会

「相模原障害者殺傷事件で考えること」

News & Topics

- ・車椅子ダンス・発表会（5月16日 西成区民センター）
- ・ビー玉アート
- ・「ことのは」にスプリンクラー導入・新送迎車



車椅子ダンス・発表会（5月16日 西成区民センター）

利用者さんとスタッフがペアを組んで1年間、練習に励みます。今年は4施設から選抜された9組がその成果を発表しました。

テーマは「宇宙」。「ジュピター」「宇宙戦艦ヤマト」「セーラームーン」の音楽に合わせ、息の合ったダンスを披露してくれました。ヤマトの艦長役は、ドイツ人ボランティアのペラが務めました。

和やかな雰囲気にもまれた発表会。今回、初めてダンス発表会に参加した横守さん（デーセンター夢飛行）の言葉をスタッフが口述筆記しました。（※右枠「車椅子ダンス」を参照）

「車椅子ダンス」 横守 宏之

車椅子ダンス 星のように輪になって
みんなで踊ってた
かがやく かがやく 見てる人も輝いた
嫌なことも 忘れてしまって 感動した
また自分もみんなと一緒に踊りたい
苦しいことも 悲しいことも
忘れてしまうから



ビー玉アート

絵の具がついたビー玉をさまざまに転がし、その軌跡で自身を表現する「ビー玉アート」。線と線のつながりは、地域や社会、人々とのつながりを意味します。そのビー玉アート作品のリース事業が徐々に広がっています。

キャンバス地に描いた作品を貸し出すリース事業は、歯科医の待合室を彩るなど契約者が少しずつ増えています。3ヶ月15,000円、1年契約。定期的に利用者さんとスタッフが作品を直接お届けに伺います。作品が利用者さんと社会を結ぶ接点に。またリース料は重い障害を持った方々の貴重な収入となります。

また誰かとつながるというコンセプトは、結婚式にもぴったり。招待状や席次表にビー玉アートの作品を利用するウェディング事業にも取り組んでいます。これまでに約10組のカップルの結婚式を彩りました。

お知り合いにビー玉アート事業をぜひPRを！



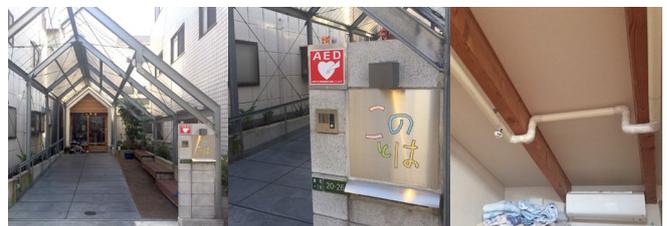
「ことのは」にスプリンクラー導入・新送迎車

グループホーム「ことのは」（定員7名）にスプリンクラーを設置しました。総額約240万円の工事費のうち、約180万円が大阪市民間社会福祉施設等整備費補助金から。残り約60万円を後援会が支援しました。

これまで小規模グループホームにはスプリンクラーの設置義務がありませんでしたが、各地の高齢者施設での火災を受けて法改正が行われました。ところがマンションなどの集合住宅の場合、グループホームのスプリンクラー工事が建物全体に及ぶことで大規模なものとなり、その費用負担が現実的ではないとして各地で問題となっています。

「ことのは」は2012年11月から活動スタート。1戸建てのため助成金を利用して今回スプリンクラーを設置することにしました。

安全な生活のための安心材料となるスプリンクラー。しかし、火災がなく、スプリンクラーが活躍しないことを祈ります。



新送迎車

重い障害を持つ方々の送迎は大切な活動のひとつです。朝夕、通所の足となる送迎車は現在、4施設で13台。いずれも車椅子用のリフトを搭載しています。このうち、デーセンター夢飛行（西成区）の送迎車がもっとも古く、20万キロを超え、30万キロに迫る4台は故障も目立つようになりました。

そこで今回3台を入れ替え、うち2台分（6年リース）を後援会から支援することになりました。新車は夏～秋にかけて順次導入の予定です。気持ちよく送迎ができそうです。

紙面座談会

相模原障害者殺傷事件で考えること

障 害者19名を刺殺するという「相模原障害者殺傷事件」(2016年7月26日発生)は、社会、障害当事者はもちろんのこと、そのご家族、また支援するスタッフたちにも大きな衝撃を与えました。

意 思疎通がとれない重い障害者は安楽死の対象とすべきという被告。非難される一方で、称賛するかのよう な言動がインターネット上でなされたことも事実でした。後援会が支援する重い障害を持った方々は自身の言葉で反論することが難しい方々です。私たちはどのような反論が可能でしょうか。2人のご家族、そして子育てする女性スタッフ2人に今回の事件について語っていただきました。

**廣本 三枝子**

ゆうのゆう家族会会長。重症心身障害者の二男は自宅とシェアハウスで生活。自身もヘルパーとして別事業所で勤務し、障害者支援に取り組む。

◆ 私たちにとって衝撃的な事件でしたー。

《廣本》ー 職場の上司と話をしたが話が膨らまない。衝撃的な内容にフォーカスされてしまい、そこまで?なぜ?というところで考えが止まってしまう。

彼は福祉のことに興味があったという。挫折があったとしても、なぜそのような考えに行き着いたのか。「意思表示できない者は幸せじゃないから死ぬほうが幸せ」、そう思考が発展してしまうのは、福祉の授業に欠陥があるのでは?と思った。

「弱者を守ってやる」「助けてあげないと」というところから出発すると危うい。何かあったときに犯人のような考えに流れてしまう。「ともに生きてる人間」という発想からスタートしないと。

**工藤 ひとみ**

長男が気管切開、胃ろう。「ゆうのゆう」の生活介護施設に通所する一方、夫婦で障害者支援の事業所を立ち上げる。

《真壁》ー 嫌悪感しか感じなかった。自分の子供が、親が、障害者になったとしても同じことができるのか?なんて想像力の欠けたおそろしい思想なんだと思った。

**真壁 萌**

ALS(筋萎縮性側索硬化症)の母看病のため、「ゆうのゆう」を一旦退職して実家のある福島県へ。逝去後、復職。3歳の子育て真っ最中。

《小山》ー 友人と秋葉原の通り魔事件の時のような話にならない。施設という閉ざされた空間のなかで起きたことだから?福祉の問題となったとたんに皆が興味を失ってしまったように思う。例えば、テロで人が亡くなったとしても、アフリカで起きた時とヨーロッパで起きた時とでは社会の関心の度合いが違くと

**小山 望**

大学で福祉を学ぶ。公務員や相談員を目指す友人が多いなか、現場を志望。2歳の子育て、今冬に2人目を出産予定。「ゆうのゆう」ではリサイクルショップを担当。

いったような…。

《工藤》— 何もできないように見えるかも知れないけれど、「生きているんだよ」と。そのサインを彼は見つけられなかったのか。

◆ 彼は元施設職員。

元の職場で起こした事件です。

《小山》— 利用者さんと心を通わせた瞬間があったはずの職員がやることだろうか…。理解できない。

《廣本》— どのようにして、彼の考えが醸成されたのか。仕事で挫折を感じたとしても、反動でそのような考えに至った原因は解明すべきだと思う。皆がそうなるわけではない。

◆ 障害福祉は無駄なコストという考え方もあります。

《真壁》— 福祉の仕事をしている以上、自分の言葉を持って働きたいのだが、コストに対する反論ができないのがもどかしい。私たちが利用者からもらうものは目に見えないもの。目に見えないものが私にとっては大切に、気持ちでもらえるものを説明することは難しく、それを分らない人も当然いる。

《廣本》— ああ、二男はやっぱり生きづらい存在なのか。生まれてきたらアカン存在なのかなあ。大多数の人がそんな風に思ったら辛いなあ。有能な人ばかりならギスギス。癒す人もいて、それを含めての人間社会なんだけど。できる人だけの社会がいいのなら全部AIにまかせればいいのだし。

《真壁》— 一人が亡くなるってことは、もう二度と会えなくなることだって、母が亡くなり少し時間が経って、当たり前なことなのに改めて思う時があります。生きていてくれるだけでよかったんだと。母の場合、病気の進行が早かったので、眼球しか動かなくなるのでは、と意思疎通が難しくなることを母はとても恐れていました。気管切開も拒否していました。でも、たとえそういうケアが必要になっても、今居てほしかったです。居てくれるだけでいいから。

《工藤》— 外出中、「寒いなか、なんで連れてくるんや」

と言われたことがある。「え？外出したらあかんの？」「寒いと外で出たらあかんの？」同等とは見られない現実はまだ…。

《廣本》— おばあちゃんに二男の手足をさすられながら涙を流されたことがあったが、これも少し違うなあ〜と。

《小山》— 利用者さんと外出の際、親しく話しかけてくれる方がいた。「かわいそうに」という言葉が時々出てくる。「かわいそうじゃないですよ」と言いかけて迷った。この人は善意でその言葉を出している。もし私が否定したら、「善意で言ってるのに」「せっかく…」という気持ちもたげてくるのではないか。私の返答如何によって悪感情をもたれることは利用者にとって不利益？善意の中でもどこかに差別の気持ちがあるのではないか…。

《真壁》— もともと抵抗があったが、子供が生まれてから余計に出生前診断なんて考えられないと思うようになった。命の選別なんて無理。コストがかかる、負担がある、今までと同じ生活ができない…それらがあってもかわいい子のはず。なのに診断の結果生まれない命があるなんて…。

◆ 被告に同調するネット上での言動は…。

《廣本》— ネットは匿名。顔が見えないと、心のどこかにある部分の気持ちが増幅される。お互い様で世の中は成り立っているのに。高齢者問題だって、自分の親、そして自分自身の問題でしょう。「皆で助け合いましょう」が、社会の理念。自分自身も子供のときは恩恵を受けているはずなのに。今は受けていないとも言うのだろうか。

《小山》— 元気な一瞬の時間だけを見て判断するのはおかしい。専業主婦も叩かれたりするが…。病弱な人、障害の人とか昔は亡くなっていったというけど、その人たちが生きられる社会って、そうじゃない人も生きやすい社会。昔なら死んでたと排除するのは理解できない。

《工藤》— 被害者の氏名公表の問題も難しい…。公表に対して、「生きた証」という考えもあるようだが、公表されなくとも“生きた”ことになり変わらない。ネットに名前が出ると事件が逃げ

られなくなってしまうような…。被害者側も
ずっと考えていたくないのでは…。

◆ 地域での生活は難しいのか。

《工藤》— 報道はもっとわかりやすく。犯人個人の問題となってしまう。そうでなく、福祉の現状を。現状や必要性は触れられていない。「地域に帰す」とは言うが、24時間ヘルパーの時間数は支給されるのか。ヘルパーは足りるのか。地域はまだ受け入れる力がまだないのでは…。事業所のスタッフからは「こんな事件がありましたね」との言葉が出たので、事件直後に事業所内で話し合った。結論が出るわけではないけれど、家族も交えて、家族の気持ちを聞いてもらうようにした。うちの子が寝ていたら、きっと反応を返すのが苦手なので殺されていたらと思うと…。

《小山》— 卒論が「脱施設」だった。その考えは変わらないが、実際の生活が難しい方もおられるだろうというのもわかる。卒論時、施設の職員にインタビューした際、「できる人であれば、とくにやってる」と言われた。地域の反対、クレームなどほんとうに難しい。地域でどうやったら普通に暮らせるのか…。丸ごと受け入れられる社会がいいのだが。

《真壁》— 母のことをご近所に隠すことはなかった。連絡を取れない状態になって、母の友達に「このような状態です。連絡できなくてごめん」と連絡するのも私がやりました。

母が障害を持って母は母。私は障害者を見ているのではなく、障害を持っている母を見ている。障害者を見るときに、障害を見るのではなく、人を見ればいい。なんら私たちと変わることはない人として…。

……裁判が始まると、被告の言動、証言が報道されます。被告が当初の主張を改めない限り、報道を通じてその言動、背景となる思想が社会に浸透していくことに怖さを感じます。重症心身障害者と関わる私たちはその怖さを知りつつ、その思想に反論できる言葉をしっかりと探し、対抗していきたいと思えます。

(聞き手・構成 大槻 瑞文)



会計報告

会員の皆様、毎年の会費をありがとうございます。

2016年度 2016年4月1日～2017年3月31日

収入		支出	
年会費	1,260,166 円	事務費	29,812 円
寄付	310,374 円	社福ゆうのゆうへ	608,000 円
預金利子	558 円	振替手数料	864 円
合計	1,571,098 円	合計	668,676 円
		収支差額	902,422 円
前期繰越金	14,326,022 円	次期繰越金	15,228,444 円

グループホーム「ことのは」に火災用スプリンクラーを設置しました。総額約240万円のうち大阪市施設整備費補助金が約180万円、残り約60万円を後援会から支援しました。

2017年度 2017年4月1日～2018年3月31日

収入		支出	
年会費	1,253,588 円	事務費	36,818 円
寄付	1,288,000 円	社福ゆうのゆうへ	7,027,200 円
預金利子	558 円	振替手数料	864 円
合計	2,542,146 円	合計	7,064,882 円
		収支差額	- 4,522,736 円
前期繰越金	15,228,444 円	次期繰越金	10,705,708 円

デーセンター夢飛行のリフト付き送迎車（ハイエース）3台が走行距離30万キロに近づき老朽化しており、この度新車導入を図ります。6年リースの2台分総額を支援しました。実際の配備は夏～秋の予定です。



後援会員継続リスト

ご継続ありがとうございました！（敬称略）

◆ 2016年度 継続

藤永淳二 藤永芳子 古田幸代 鈴木信哉 藤田和彦 西野茂 前垣孝春 南部謙二 長谷川幸子 山地雄平 飯田美紀子 田比奈後良樹 出野美佐子 畑まみ 大宮景子 岡田和子 堀本京子 小西頼子 筒井恵美子 沢辺みかよ 前川裕子 安藤まゆみ 平井毅 小屋秀二 近江愛子 進藤多代 殖栗美和子 西土政利 山中富美男 今里政義 中東妙子 常松清吉 中東三和子 福田六夫 福田正人 福田純二 田邊佐千子 永野明秀 森真理子 奥野温子 永和信用金庫 天下茶屋支店 中西孝子 たこ焼き工房Sea & Sun/山口滋巳 匿名(1名) 石川典子 森川康之 菅野裕史 宮部秀和 杉本マリ 福島和子 木村時計眼鏡店/木村朋毅 小林裕子 小野山弘子 岡本宏美 橋田龍志 山本敏行 前田俊子 山田正雄 西川美幸 井浪洋夫 平井義丸 村山真知子 小西孝子 荒木節子 有尾則彦 山口留美子 有尾祐彦 藪内資子 廣本三枝子 松井眞 木村朋毅 太田景子 梅本良昌 河合裕美 上田恵子 遠田至 遠田順子 大槻文恵 森公子 渡辺祐子 金子一雄 中山茂 堀田治美 井木真知 大井攝子 榎原信之 原田進 高畑弘之 山口敦子 長沼奈緒子 中光治 松村華代 岩本和美 双葉法律事務所/梁英子 山成嘉代子

宮本恭子 前堂則子 小川陽清 西川明子 鈴木友治 梅本哲男 田辺隆子 沖村諭孝 花岡洋二 高井靖明 真田政稔 太田晴美 神童俊雄 西田フミ子 中野順子 岡カネ子 ハートフルライフ 交通(株) 森岡新 三島隆一郎 山本明美 原田啓司 中橋弘晃 迫田吉生 松井延子 青木康 佐藤美也子 小野幸子 鶴田久美 玉置敦子 禅定みどり 武居友子 黒瀬紀久子 後秀樹 (有) ウェルビー 林均 高野繁 高野郁子 宮部智勢子 原田浩 藤井五月子 魚井昭彦 金本京子 松本素子 岩藤博明 神田美穂 古澤戦勝 亀井浩司 工藤ひとみ 神崎真理子 伊藤真美 佐藤清子 佐藤裕英 佐藤温子 佐藤由希 飯田香久子 仲地弘 勝山欣哉 勝山裕子 橋田恵美子 竹林典子(株) パオンメディカル/松井公一 太田徳子 酒井佐和子 中島裕文 貫野旬子 高津由之 瀬戸恵利子 国田淳子 岩戸美津江 小泉秀子 楠本恵亮 島森きみ子 木戸京子 吉村英子 上田久子 岩本和子 村田好範 奥津矩男 神崎修 伊森雅彦 天野真紀子 齊藤治 北川仁美 武内計二 橋田友美 田川香 山中美也子 梅本庸子 山崎康子 松本興子 南部信子 加藤ヨーセツ(株)/加藤世里子 溝渕啓子 友田洋子 嶋恭加 斎藤雅子 有尾雪江 奥田裕子 田代健二 竹本歯科医院/竹本博文 エイチ・アール・エム・オフィス 社会保険労務士法人/丹羽幸子 光野濱子 酒井伸子 萱野加津夫 伊藤紘 伊藤佳代 利川慶子 山内鉄夫

(株)クラハラ 岡本潤和 岡田満喜子 菅洋子 桂塩鯛
大井知子 吉田肇 今宿幸男 橋田國身 久保千代美
光安寿三郎 阿部務 高勿富榮 村野知子 山下淑子 松本薫
匿名(5名) 今柳田智佳子 田中保治 南部由香里 奥井光司
五味侑子 夏川町子 金澤真理子 田代裕子 橋田奈穂
石原郁子 荒木眞一 迎千咲子(医) 吉治会齊藤医院/
齊藤真弓 阪下由記子 清水洋子 安田規子 小山英彦
川辺美代子 森葉子 神童美代子

◆ 2017年度 継続

佐藤清子 山崎圭三 山崎陽子 山崎正則 森江行雄 厨達夫
山地春美 桑原雅代 山川瑠美 堀政治 安藤まゆみ
尾谷富美子/尾谷孝子 米津節子 大橋千重子 細野悦子
川谷徳彦 片山トキエ 有尾克ひこ 有尾かほる 南部謙二
(株)大光/黒木浩二 小屋秀二 平井毅 藤永淳二 藤永芳子
鈴木信哉 古田幸代 村山龍一郎 村山繁樹 出野美佐子
小林久子 畑まみ 八木秀雄 八木敏子 平田雅美 平田美子
西野茂 殖栗美和子 山地雄平 岡田和子 長谷川幸子
仲島真悠子 堀本京子 前川裕子 大宮景子 野田比奈
今中正己 小西頼子 飯田美紀子 藤田和彦 朝倉裕子
後良樹 八谷秀孝 中東妙子 上田恵子 木立和子 森真理子
匿名(1名) 山中富美男 池田峻 福田一郎 常松由起子
森公子 福田正人 田邊佐千子 福田純二 永和信用金庫
山王支店 筒井恵美子 中西孝子/中西亜紀子 福島和子
奥野温子 田中弘子 太田景子 永野明秀 宮部秀和 石川典子
河合裕美 瀨崎幹雄/瀨崎道子 橋田龍志 小林裕子
万代義彦 村山真知子 大槻文恵 三井忠/三井由利子
山田正雄 有尾則彦 小西孝子 平井義丸 西川美幸 井浪洋夫
遠田至 遠田順子 山口留美子 荒木節子 安田由美子
有尾祐彦 梅本哲男 藪内資子 梅本元子 小野山弘子
渡辺祐子 堀田治美 長沼奈緒子 高畑弘之 前田俊子
岩本和美 前堂則子 中光治 双葉法律事務所/梁英子
勝山裕子 川谷圭子 小川陽清 原田進 松村華代 田代裕美子
山城喜美子 廣本三枝子 西川明子 中道順子 大井攝子
榊原信之 山口敦子 山成嘉代子 沖村論孝 西田フミ子
原田啓司 宮本恭子 三島隆一郎 中橋弘晃 高井靖明
神崎修 尾谷孝子 山本明美 ハートフルライフ交通(株)/
池上寛 太田晴美 森岡新 間處史歳 磯村由季 佐藤美也子
黒瀬紀久子 竹林典子 青木康 高野郁子 高野繁 小野幸子
迫田順子 松井延子 玉置敦子 林均(有) ウェルビー
鶴田久美 井木真知 後秀樹 岩藤博明 田邊秋子 松本素子
柳川敏美 魚井昭彦 古野宗代子 杉本マリ 亀井浩司
神崎真理子 伊藤真美 金本京子 原田浩 泉建設(株)/森章人
真鍋光子 神田美穂 龍昌子 工藤ひとみ(株) 京旺/伊藤健三
村田好範 森葉子 勝山欣哉 酒井佐和子 貫野旬子 小泉秀子
武内計二 梅本庸子(株) パオンメディカル/松井公一
高津由之 岩本和子 楠本恵亮 仲地弘 島森きみ子
岩戸美津江 吉村英子 進藤多代 田辺美加 瀬戸恵利子
橋田恵美子 奥津矩男 天野真紀子 木戸京子 佐藤裕英
佐藤温子 佐藤由希 伊森雅彦 山中美也子 歌門善一
山崎康子 溝渕啓子 斎藤雅子 光野濱子 有尾雪江 南部信子
吉岡建設(株) 吉岡建設(株)/山本裕信 三井由利子
田代健二 伊藤紘 伊藤佳代(株) クラハラ 橋田友美 齊藤治
酒井伸子 萱野加津夫 竹本歯科医院/竹本博文
加藤ヨーセツ(株)/加藤世里子 近江愛子 今柳田智佳子
吉田肇 岡本潤和 松本薫 五味侑子 桂塩鯛 今宿幸男

川辺美代子 大井知子(有) イングス/光安寿三郎 山下淑子
岡田満喜子 橋田國身 高勿富榮 安田規子 梅本良昌 菅洋子
田代裕子 村野知子 橋田奈穂 迎千咲子 金澤真理子
石原郁子 守山好子 齊藤医院/齊藤真弓 田中保治
清水洋子 阪下由記子 神童美代子 川畑さよ子 中島裕文
朴君愛

◆ 2018年度 継続

朴君愛 大橋千重子 匿名希望(5名) 山崎圭三 山崎陽子
山崎正則 有尾克ひこ 有尾かほる 山地春美 厨達夫
(有) 真鍋工作所/真鍋秀和 桑原雅代 安藤まゆみ 堀政治
黒木浩二 山川瑠美 孔恵琳 藤永淳二 藤永芳子 鈴木信哉
古田幸代 小林久子 双葉法律事務所/梁英子 尾谷富美子
川谷徳彦 八木敏子 近江愛子 飯田美紀子 細野悦子
南部謙二 野田比奈 前川裕子 大宮景子 堀本京子 山地雄平
出野美佐子 坂本純代 藤田和彦 畑まみ 山城喜美子
長谷川幸子(有) トミーコーポレーション/富田俊哉
小野季代子 森真理子 福島和子 上田恵子 常松由起子
永野明秀 山中富美男 木立和子 宮部秀和 橋田龍志
匿名希望(1名) 後良樹 西野茂 乃一知子 田邊佐千子
福田正人 福田純二 福田一郎 村林節子 河合裕美 小屋秀二
鈴木亜紀 辻優 野中謙三 大槻文恵 山田正雄 平井義丸
森公子 村山真知子 山口留美子 根田由美子 藪内資子
小西孝子 有尾祐彦 有尾則彦 岡田由布紀 青木政憲
井浪洋夫 廣本三枝子 遠田至 遠田順子 猪尾利治 石川典子
奥野温子 朝倉裕子(2018年7月20日受付分まで)

ご支援よろしくお願ひします!(敬称略)

◆ 2016年度 新規

岡田由布紀 田邊秋子

◆ 2017年度 新規

鈴木亜紀 朴君愛

ご寄付・寄贈いただきました!(敬称略)

◆ 2016年度 寄付

西優子 西田政則/西田千鶴 酒井佐和子 神童俊雄 畑誠

◆ 2017年度 寄付

西優子 上田久子 三寶院/川瀬良禅 谷彦士郎
イノウエヨシロウ

◆ 2018年度 寄付

西優子

退会。長年のご支援ありがとうございました!(敬称略)

◆ 2016年度 退会

谷彦範 山之内増男 山之内春子 葛川久美子 葛川香澄
魚井治夫 魚井慶子 大槻英夫 青木フミ 青木護 神童俊雄
飯田辰朗 森田康啓 尾谷文子

◆ 2017年度 退会

石田公德 石田淑子 三寶院/川瀬良禅 原田恵子
矢萩良一 福田六夫 常松清吉 中西孝子 中西亜紀子
高畑弘之 前嶋明美 井浪淳夫 有尾雪江 中川直子

◆ 2018年度 退会

八木秀雄 平田雅美 平田美子 野中謙三

会員拡大へご協力を！

日頃より後援会活動へのご協力誠にありがとうございます。

後援会員は発足当初から実に1000人を超え、毎月1万円の寄付を振り込んでいただく会員さん、学生時代の同窓会の幹事をして、その残金を皆さんに了解を得て寄せてくださる方、利用者さんの逝去に伴って寄付されるご家族の方など多くの皆さんのご理解によって活動が支えられています。

決算報告にもございますように、毎年の後援会費は施設のスプリンクラー設置や送迎車両の導入など、重い障害を持った方々の地域生活支援に生かされています。

しかし、一方で会員の逝去等に伴って全体として会員数は減少傾向にあります。後援会活動の趣旨に賛同いただけるお友達、お知り合いをぜひ紹介ください。

「会員になってくれそうだけど？」という方がおられましたら、事務局（06-6656-1280）までご一報ください。資料、申込書等送らせていただきます。

会員拡大へぜひご協力をお願い申し上げます。

「ゆうのゆう」後援会の会員を募集しています

重症心身障害者の地域生活を支える活動を支援しようと設立されました。ゆうのゆうの運営を側面から支援するほか、重症心身障害者の現状、社会活動の大切さを広く社会に訴え、社会的支援の実現を図ります。

年会費 1口

個人会員：3,000円、法人(団体)会員：10,000円

振込先

郵便振替口座：00900-4-157766 「ゆうのゆう」後援会

お問合せ先

「ゆうのゆう」後援会事務局まで
TEL：06-6656-1280 Eメール：info@yourwing.org

後援会呼びかけ人

犬伏 一人(読売新聞論説委員)	小西 威史(月刊誌「ソトコト」編集部)	富田 佳志(朝日新聞記者)
羽柴 修(弁護士)	堀内 正美(俳優)	増田 耕一(毎日新聞東京本社代表)
松本 賢志(時事通信記者)	山沖 之彦(プロ野球解説者)	梁英子【ヤンヨンジャ】(弁護士)

編集後記

学生時代に海外を旅した思い出の大半は人との時間。たまたま隣り合った方とのトラソングゲームや借リた宿…。災害や内戦といった報道に接すると、今頃どうしているのかと。外国人観光客でにぎわう大阪。各施設の近くにもゲストハウスや民泊が目立ちます。リュックを背負う姿は、当時と変わりませんが、その手には必ずスマホが…。目的地に効率的に到着できるでしょうか、道案内の有難さや、ふと降り立った駅から今夜の宿を探すスリルはスマホからは生まれません。私たちの活動にその行き先を示す地図などありません。そこに不便、不安を感じるか、スリルだと楽しめるか。「安定」とは対極にある利用者さんの日々。その姿は、私たちに「ねえ、楽しんでる？」と問いかけているかのようです。(七)

ゆうのゆう後援会だより No.25

2018年8月発行

発行人 / 「ゆうのゆう」後援会

〒557-0042 大阪市西成区岸里東1の5の25

TEL：06-6656-1280 Eメール：info@yourwing.org

ホームページ：http://www.yourwing.org